

# 提携米通信

2020年2月号・黒瀬農舎

## 暖冬・地球温暖化に恐れおののく日々



**雪国秋田で大寒の日にも雪ナシ**  
我が家の庭。秋に取り残した庭の大根は、雪もなく、気温も高く、凍傷も出ず美味しく煮えました。2020.1.29 撮影

令和に代わって最初の冬。語り廃れたような話題ですが、薄気味悪い「暖冬」です。孫を遊ばせようと準備した2機のスノーモービルは、この3、4年走れるような雪はなくホコリを被ったままの状態ですが、今年の暖冬は、桁違いです。

昨年12月始めに、秋田県の内陸南部に位置する横手地域では、

年内の記録としては珍しい平地で1㍍近くの積雪があったものの、その後はほとんど雪が降らず、秋田県内の多くのスキー場も休場です。また、2月中旬の「横手かまくら祭り」は実施が危ぶまれています。

この横手地方から北に約100kmにある我が村は、11月下旬の暗渠作業時には、早々と雪で白くなりましたが、その後、12月も1月も時々薄化粧はあるものの、この冬は、今までずっとまとまった積雪がなく、夏タイヤで支障なく走っています。

また、雪がないだけでなく、正月明けからずっと、3月下旬から4月始めの気温。雨が降れば、まるで梅雨のような暖かい大雨。「種蒔きでも始めようか」と思う日も多いです。

先日は、秋田牛のスジ肉を県の畜産農協連合会の店で手に入れたので、牛筋煮を作ろうと秋に取り残した庭の大根を、試しに引き抜いて来ました。美味しく煮上がりました。寒さ対策も施していないのに、凍傷にも罹っていない。こんなことは秋田では「奇跡」です。

最近生産者に会おうと、天候のことが挨拶代わりとなっています。誰もが心配しているのです。でも、天候に左右されるのは私たちだけではありません。雪国の土建屋さんは、冬は除雪が飯の種。知り合いの土木業者も悲鳴をあげています。

しかし、思い返せば、昨年も今頃は「暖冬」で冷夏が懸念でしたが、夏は暑くて順調でした。人智の及ばぬ心配よりも、春からの栽培設計に夢をかけたと思っています。

## 提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大湯村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

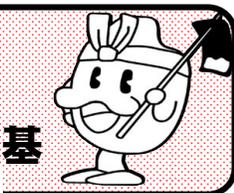
TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887

E-mail: [akita@kurose.com](mailto:akita@kurose.com)

Web:

提携米 黒瀬農舎

検索



★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までご連絡下さい。

★お米のご贈答利用も宜しくお願ひします。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応となることがあります。ご了承願ひします。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

## 冬期間は農機の修理や改良で愉しんでいます。

当地の作業手順は、秋の収穫作業を終えると、田圃の排水を促進するための暗渠工事をもって一年の外仕事は終わります。

本来の当地・秋田では、この暗渠施工の中盤頃から雪が来て、12月から3月末頃までは、田圃は当然のこと、田んぼへの道路も雪に埋もれて、車では行けなくなります。

この時期になっても、お米を産直している私たちは、夏場と変わらない忙しさがずっと続きますが、生産したお米の販売を農協などに任せている近隣の一般農家は、居住区にある倉庫で、農機具の整備など比較的のんびりした時期を種蒔き前まで過ごします。

我が農舎の場合は、倉庫での仕事として、粳すりや精米、毎日のお米の出荷、農機具の整備に加えて、毎年冬場にはいくつかの農機具の改良製作の鉄鋼工作を行っています。

昨年は、特性の乗用除草機と、暗渠用の粳殻を4トン車に積み込むための特性ダンプの製作に費やしました。冬の製作物を実際に使ってみると役たらずに終わる場合もありますが、



敦賀港から秋田港にやってきた中古クローラ運搬車

昨年の作品は2つ共にほぼ成功し大満足です。

今冬のテーマは、粳殻を袋詰めせずに、暗渠敷設のために掘削した溝に、直接粳殻を投入できる特性粳殻運搬投入車の製作です。

この投入車には、昨冬作ったダンプを使って粳殻を積み込む算段です。

ちょっと大掛かりな製作物で、果たして成功するかどうかは、春までのお楽しみです。

この構想は、今年の暗渠施行作業時に固めたもので、暗渠作業に来てくれる女性たちが、最若者でも70歳を超え、粳殻の袋詰め作業が難しくなりそうだと感じたからです。

早速諸材料を探し回り、中古機械のネット検索で、福井県に1トン積載用の土木用のゴムクローラ（キャタピラー車）小型運搬車を見付けました。

新車150万のものが16万円だったので、少々予算オーバーでしたが、年末に、日本海フェリーで無人搬送し、秋田港で受け取りました。（ちなみに船賃は2万円余り）

上のクローラ運搬車の荷台に、軽自動車のダンプを直角に据付けて、暗渠の溝に沿って、運搬車を移動しながら、粳殻を溝に投入する目論見です。

角パイプを溶接して、粳殻袋が1度に100袋程度収容できる枠を組み立てる予定。ヤマトや佐川さんが使っているアルミ箱の2トン車を超える大きさになり、背も高くなり安定性が少し心配です。

右の写真が、車屋さんから無料で貰ってきた軽自動車のダンプ部分です。

30年前の車で5年も野ざらしされていた廃車。

錆びだらけどころか、腐っている部分が多く、腐食部分の切断除去や補強溶接などに、正月3日から2週間ばかり費やしました。不動だったダンプ機能も、油圧ポンプやモーターを分解整備し、テストに1トンの荷重を掛けて見たら、見事にダンプ成功。積載予定の粳殻重量は800Kg程度だから、先ずは大丈夫そう。



オンボロの廃車ダンプ